

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年11月24日

【認知症対応型共同生活介護用】

【評価実施概要】

事業所番号	2770108013
法人名	社会福祉法人 そうび会
事業所名	つるぎ荘・やしもグループホーム
所在地	堺市東区石原町3丁150番地 (電話) 072-240-3378

評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 21年 10月 30日

【情報提供票より】(平成 21年 10月 10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 7月 1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	15人	常勤	13人, 非常勤 2人, 常勤換算 13.7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000円	その他の経費(月額)	26,000円	
敷金	有(円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無			
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,400円		

(4) 利用者の概要 (平成 21年 10月 10日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	3名	要介護2	5名		
要介護3	7名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 82.1歳	最低	65歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人まごころ会 豊川病院、医療法人錦秀会 阪和第2泉北病院 阪和病院、阪和記念病院、阪和住吉総合病院、医療法人佳晴会 きたのだ歯科
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域のニーズに応え、地域に根ざした「地域サポートセンター」として在宅サービスを中心とした事業を展開していくために開設されたグループホームです。土に触れ、芝生の上で洗濯物を干していただく生活を実現できるようにとの思いで、2ユニットとも1階にあります。「お年寄りにいたわりの心」の理念は職員に浸透し、利用者の気持ちを汲み取りながら、一人ひとりの力が発揮でき、人の役に立つことを実感してもらえるよう支援されています。夜勤は2名体制で、職員や家族の安心にもつながっています。アットホームで笑い声が絶えず、「利用者の表情が私たちの自慢です」という職員の声に、ケアの質の高さが伺えるグループホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連科目:外部4) 運営推進会議の規程作成はこれから取り組んでいく予定です。安全面を考慮して入り口を施錠していますが、戸外にでる機会を多く作り、また外出を希望する利用者にも閉塞感がないようにしています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 外部評価の意義を理解した上で、リーダーを中心に自己評価に取り組んでいます。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 南八下自治会の街作りを考えるワーキングメンバー・民生委員・高齢者文化クラブ世話人・家族会代表・東区地域包括支援センター所長等、多様な参加者のもと、2ヶ月に1回開催しています。運営状況や利用者の暮らし、行事、研修実績などを報告し、意見交換を行っています。会議での話し合いにより自治会館でのふれあい喫茶に参加する地域高齢者に無料券が配布されたり、ボランティアの導入に繋がったりしています。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族の来訪時には、積極的に要望や意見を聞くようにしています。毎月、写真付きのおたよりを家族に送付し、より利用者の暮らしぶりを理解してもらっています。意見箱の設置や家族会の開催等、家族の希望や願い・不満をさせる機会作り工夫しています。家族会の意見を運営に反映した最近の例として、個人用のかごを用意して洗濯物間違いを改善しています。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町会の賛助会員になり、会議に参加しています。地域でのふれあい喫茶にも参加し、地域の方との交流を図っています。地域での盆踊り・収穫祭・映画サロン等、積極的に地域での行事に参加しています。先日は、物を大切にすることを理解してもらおうと、中学校へ利用者が縫った雑巾を届けました。
重点項目④	

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「自助努力の及ばないところに発生する全ての生活問題に対して支援する」という社会福祉法人及び施設のもつ意識の重大さを認識したうえで、自立をめざすお年寄りの力になるよう「お年寄りにいたわりの心を」を基本理念としています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、新任研修1日目に説明・周知しています。また、職員会議や日々の業務の中で確認しています。職員は理念を消化し、実践にあたっています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている	自治会の賛助会員になり参加しています。自治会館でのふれあい喫茶や地域で開催される盆踊り、収穫祭、映画サロン等に積極的に参加しています。中学生の体験学習も受け入れ、また先日は「物を大切に作る心」を感じてもらうべく、デイサービスで使用した古いタオルでホームの利用者が雑巾を縫って届けました。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義は、職員で共有しています。自己評価は、リーダーを中心に職員で取り組みました。課題については、引き続き検討していきます。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、街づくりを考えるワーキングメンバー・民生委員・高齢者文化クラブ世話人・家族会代表・地域包括支援センター所長等、多様な参加者のもと、2ヶ月に1回開催しています。運営推進会議での話し合いの中から、自治会館でのふれあい喫茶に参加する高齢者に無料券が配布されています。またハンドマッサージにきてもらうなど、利用者や地域の福祉文化の向上につながっています。	○	利用者の生活向上に向けて、またグループホームの運営について積極的な意見が出される会議を開催しているため、今後は規程を作成し、更に向上されることが求められます。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センターから出席してもらっています。事故報告も丁寧に行っています。外部評価・自己評価については、今後提出していきます。	○	今後は、自己評価及び外部評価の結果は市に報告し、グループホームの考え方、実態を理解してもらうことが求められます。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の生活状況について写真を添付し、毎月家族に送っています。運営推進会議でも、ホームの行事や取り組み、利用者の暮らしぶりを報告しています。金銭管理については、毎月請求書と共に収支報告を行い、家族に確認をしてもらっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会があり、会議を開催しています。運営推進会議には、家族会代表に出席してもらい意見を聞いています。ピクニックを実施した際には、家族からも参加を得て、ふれあいの中で自由に意見を聞く機会にしました。家族会の意見を運営に反映した最近の例として、個人用のかごを用意して洗濯物間違いを改善しています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設当時より正規職員の割合を高くして、職員の定着への工夫をしています。また、経営コンサルタントに入ってもらおう等、職員全員の意識調査を行い、育成・定着につなげています。職員の心身の負担軽減のために、制度上の人員配置基準を上回る2ユニット2名の夜勤体制を導入しています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同法人地域サポートセンターの職員会議、グループホームの職員会議の後、定期的に時間外の研修を実施しています。資格取得のための奨学金制度もあります。内部での研修は定期的に行われていますが、外部研修への参加が年1回でした。	○	今後は外部研修にも参加して、伝達研修で情報を共有し、さらなる質の向上に取り組むことが求められます。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大阪認知症高齢者グループホーム協議会に加入しています。堺市のグループホーム交流会にも参加しています。今後は管理者だけでなく、職員も交流会に参加していく方向です。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居申し込みをされた方の面接は、自宅に管理者と職員で伺っています。体験入居のシステムもあります。入居体験したけど利用者が納得できず入居できなかったケースもある等、利用者・家族の安心・納得を大切にしています。デイサービス利用者が入居する等、馴染みの関係が安心につながっています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の暮らし方に学ぶことがあると感謝しながら、利用者の支援にあたっています。利用者の家族への思い、家族の利用者への思いを受け止め、毎日のケアを実践しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族の思いは、日頃の関わりの中で把握に努め、ビールを希望される利用者には晩酌を提供し、入浴後の化粧水の使用や化粧で眉毛をひく事を希望される利用者には、毎朝の身だしなみを一緒に整えています。貴重な気づきを職員間で共有できるように、記録の工夫を検討することが期待されます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の思い、意見も反映させ、時には利用者も参加し、ケア会議や担当者会議、全体会議等において職員全員の意見で介護計画を作成するようにしています。目標を達成する上で、介護職だけでなく家族やボランティア等の支援も受けているため、担当者欄に他の支援者も記載することが期待されます。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	最低6ヶ月毎に計画は見直し、家族や利用者の希望、状態や状況変化に応じ内容を変更しています。現在きめ細かなアセスメントが行えるようにシートの見直しを検討し、利用者が支援を受ける事で実現可能となる、自立支援を意識した計画の作成を心掛けています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の急な不調の訴えに対して柔軟に通院の支援を行っています。近隣から家族の急な入院に応じて、短期利用の要請があり現在も支援をしています。また、併設するデイサービスからの相談により、ショート利用から入居の移行も柔軟に行っています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望するかかりつけ医に、継続して定期受診できる支援を行い、結果も家族に伝えています。複数の医療機関との協力体制もあり、訪問診療や訪問歯科等の適切な医療が受けられるように支援しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期について看取りの指針を定めており、入居時に家族の了承も得て、その都度、話し合いも行っています。また、重度化に向け同一法人施設との協力支援体制があり、家族等へ安心につながるよう説明を行っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に利用者の立場に立ち、基本理念である「いたわりの心」で接しています。職員採用時には個人情報保護についてのサインをもらい、秘密保持に努めています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホームの基本的な時間配分はありますが、起床時間の遅い方には急かすことなく、その方のペースに合わせて朝食を摂ってもらう等、一人ひとりの希望にそった対応をしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日曜日を除く毎日、利用者が職員と一緒に近くのスーパーへ食材を買いに行っています。盛り付け、テーブルを拭く等の準備や後片付けも当番の利用者が生き生きと役割を果たしており、職員と一緒にの食事を楽しんでいます。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は午後からになってはいますが、決して強制することなく、本人の希望を大切に、回数、入浴時間等、一人ひとりの気持ちや習慣にそった支援をしています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日生き生きと生活できるよう、利用者一人ひとりの生活歴から楽しみごとを見出していく努力をしています。編み物が得意だった方には文化祭への出展を、習字の得意な方には毎日の食事のメニューを書いてもらっています。フランス刺繍をしていた方には、それを生きがいにできるよう、家族と相談しながら支援していく予定です。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	地域との交流では、近くの自治会館でのふれあい喫茶、収穫祭、盆踊り、映画サロン等へ参加しています。車椅子や外出困難な方には近隣を散歩する等、利用者全員が外出できるよう工夫し、利用者から喜ばれています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	門扉や建物の玄関は開錠していますが、グループホームの入り口は安全面を重視して、施錠しています。利用者が閉塞感を感じないように、ユニット間や庭には自由に出られるよう工夫しています。	○	利用者には十分配慮して支援が行われ、閉塞感を感じないように工夫していますが、今後は「鍵をかけないケア」について検討し、日中開錠できる時間帯を検討することが求められます。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時のマニュアルは作成し、3ヶ月に1回避難訓練を実施し、消防署の協力も得ています。災害用の備蓄についても、水や乾物類を厨房に準備しています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事内容は、法人の管理栄養士と相談しながら全体的なバランスをとっています。食事や水分チェック記録もありますが、水分を拒否される利用者には特に注意し、水分が不足しないよう工夫しながら支援しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは採光もよく、芝生の庭に自由に出られるようになっています。土に触れる生活の実現をとの思いで1階をグループホームの生活スペースにしています。リビング以外にもくつろげるコーナーの工夫がされています。リビング横には、畳のコーナーがあり団らんの場所であり、四季を楽しめる空間となっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各居室からはベランダや芝生の庭が見られ、風通しのよい設計です。なるべく使い慣れた家具を持ってきてもらおうと、あえて物入れを作っていません。タンスをもってくることで、自分の部屋だという認識、朝夕自分で着替える生活、かくし場所をつくれるようになり、利用者の自立や安心した生活に繋がっています。</p>		